

2024_1211「12月25日のスピカ食（シミュレーション動画）」日々の理科 3779号

お茶の水女子大学 サイエンス&エデュケーション研究所 田中 千尋

2024年12月は、月による掩蔽（えんぺい=食）が3回も見られます。12月8日の「土星食」、12月9日の「海王星食」、それに12月25日の「スピカ食」です。このうち「海王星食」は観望も撮影も非常に難しく、私も見逃しました。理由は海王星の暗さです。海王星の等級は約8等で、土星の約600分の1の明るさしかありません。海王星が暗いのは、木星や土星よりも圧倒的に遠いからです。一つ内側の「天王星」は辛うじて肉眼で見える等級ですが、海王星は太陽系惑星の中で唯一「肉眼では見えない惑星」です。

12月25日の「スピカ食」は、双眼鏡でも観望可能で写真にも撮れそうです。先日の「土星食」とはちがって、月の「明側」に潜入し、「暗側」から出現します。また土星は惑星で、地球からの観察では「見かけ上の面積」があるので、潜入始め～潜入終了まで数十秒かかります。見かけ上、土星が少しずつ暗くなっていくように見えました。しかしスピカは恒星で、あまりにも遠方の天体なので、潜入時は一瞬で消え、出現時も一瞬で現れるはずでした。

土星食との比較という点でも興味深い天文現象なのですが、一つだけ大問題があります。早朝（未明）に起きるということです。「スピカ」は「おとめ座」の一等星です。おとめ座は春の星座なので、12月に観望するには明け方の東の空を観察する必要があります。今回のスピカ食も、東京では食の始め（月への潜入）が午前3:17、食の終わり（月からの出現）が午前4:13なので、相当の覚悟と防寒具がないと難しいでしょう。

